

ふるさと御所  
文化財探訪

其の十九

古墳時代（？）  
鴨都波1号墳  
棺内鏡と棺外鏡 (3)

生涯学習課文化財係  
☎内線696

鴨都波1号墳からは、棺内から1面、棺外から3面の銅鏡が出土しています。いずれも、縁の断面形が鋭く三角形に尖る特徴を持つ、三角縁神獸鏡の範疇で捉えられるものですが、かなりの違いもみられます。

棺内鏡（写真1）は直径18・5cmと他の三面よりもやや小振りです。吾有好同三神三獸鏡と称され、「吾有好同瀆且明 神守仙人居中央 今世□孫宜□王」（□は欠損のため判読困難または不能、□は逆字）の銘文帯があります。内区では一応、三神と三獸を表現しますが、放射状に二神と二獸を十字に配置する形に近く、



写真1 三角縁吾有好同三神三獸鏡（棺内鏡）

「明」から「中」あたりまでの区画においては二神と一獸が窮屈に収められています。

棺外鏡1（写真2）は三角縁二神龍虎画像鏡と称され、直径は21・0cmです。三角縁神獸鏡の神や獸の図像は通常、半肉彫で表現されますが、この鏡では主として断面三角形に盛り上がる細線で表現されている点が異例であり、また龍と虎が描かれることも三角縁神獸鏡としては珍しいものとなっています。

棺外鏡2（写真3）は三角縁三神三獸鏡で直径21・4cm、棺外鏡3（写真4）は三角縁二神四獸鏡で直径20・7cmです。共に神像の目鼻立ちがはっきりしないなど図像に不明瞭な箇所がみられ、三角縁神獸鏡としては新しい段階のものであります。

三角縁神獸鏡の場合、原鏡を元に範を複数作って兄弟の關係に相当する鏡を作ることがあり、これを同型鏡と呼びますが、棺外鏡1は奈良県内に1面と山梨県内に1面、棺外鏡2は大阪府内・愛知県内・栃木県内にそれぞれ1面、棺外鏡3は岡山県内に1面の同型鏡があります。

棺内鏡と棺外鏡を一見して異なるのは色調で、これは前号でも述べたとおり錫の含有率の違いによります。より良い鏡は棺内に、それ以外は棺外にという配置は他の有力な前方後円墳でも一般的にみられますが、鴨都波1号墳の場合は、一辺20mほどの方墳に過ぎないにもかかわらず計4面もの三角縁神獸鏡を有することが、この古墳の大きな特徴となっています。



写真2 三角縁二神龍虎画像鏡（棺外鏡1）



写真3 三角縁三神三獸鏡（棺外鏡2）



写真4 三角縁二神四獸鏡（棺外鏡3）



2010.

2